

令和7年度公共事業再評価調査

担当課名

道路整備課

番号	7					
事業名	道路改良事業			事業主体	静岡県	
箇所名	一般県道下土狩徳倉沼津港線(狩野川第三架橋)			関係市町	清水町、三島市	
事業採択年度	令和3年度		計画期間	令和3年度～令和19年度		
用地着手年度	令和5年度		工事着手年度	令和8年度		
再評価理由※	事業着手(R3)後5年が経過					
全体事業費	百万円	投資状況 (百万円)	～R5年度	R6年度	R7年度見込	計
	7,800		460	63	325	848
事業概要	(1)事業目的 狩野川第三架橋は、狩野川を新たに渡河する橋梁である。現在、清水町内で狩野川を渡河できるのは徳倉橋、香貫大橋のみであり、交通集中による慢性的な渋滞が発生しているため、本事業により周辺地域の慢性的な渋滞を緩和し、安全で円滑な交通を確保する。					
	(2)事業内容 施工延長：1,200 m 道路工：940 m 橋梁工：260 m					
【視点1】	(1)事業を巡る社会経済情勢等の変化 ・徳倉橋の交通量はH27、R3センサスともに180百台であり、徳倉橋周辺で交通集中による慢性的な渋滞が発生している。 ・徳倉橋周辺の交通事故件数は、R2～R5年で38件発生している。 ・本路線が接続する予定である(都)玉川卸団地線周辺は、マスタープランでコアゾーン(人々が集まる拠点)に位置づけられており、令和6年4月に土地区画整理組合準備委員会が発足された。					
事業の必要性	(2)事業の投資効果					
	○費用便益分析結果 (令和7年度時点)					
	B/C (i=4%)		参考:B/C (i=2%)	参考:B/C (i=1%)	EIRR	
	1.0		1.7	2.2	4.1%	
・総便益(B) 59.6億円 (走行時間短縮便益:48.83億円、走行経費減少便益:8.20億円、交通事故減少便益:2.58億円)						
・総費用(C) 58.3億円 (建設費:58.29億円、維持管理費:0.41億円、用地残存価値:0.44億円)						
○見込まれる効果(定性的な効果)						
・渋滞の緩和により、公共交通機関の定時性が向上し、地域住民等の利便性向上に寄与						
・円滑な交通を確保することで、交通事故の抑制が期待され、安全性向上に寄与						
・災害時のリダンダンシーの確保						
(3)事業の進捗状況 (令和7年度見込み)						
		区分	進捗率	内訳		
		事業費	10.9%	(848百万円 / 7,800百万円)		
事業量	道路工		0.0%	(0m / 940m)		
	橋梁工		0.0%	(0m / 260m)		
用地取得			51.1%	(11,500㎡ / 22,500㎡)		
			評価	継続が妥当		
【視点2】	今後の事業の進捗の見込み ・整備に対する地元の期待も高いことから、定期的に地元説明会を開催し、地元の要望に応えながら、事業進捗を図ることで、計画期間内の完成が見込まれる。					
			評価	継続が妥当		
【視点3】	新たなコスト削減・代替案立案等の可能性 ・現場から7km近隣にあるストックヤードを活用し、建設発生土の有効利用することで、土工費削減を図っていく。 ・盛土区間において軟弱地盤対策が必要であるため、新技術・新工法の活用を検討するなどして、コスト削減を図っていく。 ・供用後、特に腐食が懸念される桁端部等に対して、塗装の増塗による長寿命化対策を実施し、ライフサイクルコストの削減を図る。					
対応方針(案)	(1)対応方針(案) 本事業を【継続】する。					
	(2)理由 本事業は、狩野川を新たに渡河する橋梁であり、安全で円滑な交通を確保するとともに、大規模災害時の輸送機能確保を図るものである。事業に対する地元の期待が大きく、着実な整備が期待できることから、事業を継続する。					

費用便益比算出説明書

(一) 下土狩徳倉沼津港線 狩野川第三架橋
 (「費用便益分析マニュアル」国土交通省道路局 都市局 令和7年2月)

総括表

総便益 B	総便益 = [評価期間内に当該路線を整備しなかった場合に発生する経費] - [評価期間内に当該路線を整備した場合に発生する経費]	5,961百万円
総費用 C	費用 = [当該計画道路の建設投資額] + [当該計画道路の検討期間内に必要となる維持管理費]	5,826百万円
B / C		1.02

総便益

- 時間便益：道路整備による走行時間短縮を賃金率等で金銭評価
 - 走行便益：走行円滑化による燃費向上等に伴う走行経費節約を金銭評価
 - 事故減少便益：道路整備により交通事故件数が減少し事故の社会費用が減少する評価

 - 施設等の残存価値
 評価期間末における施設等の残存価値を社会的割引率4%で現在価値化する。
- 総便益 B = 5961百万円
 移動時間短縮便益 B = 4883百万円
 走行経費減少便益 B = 820百万円
 交通事故減少便益 B = 258百万円

※

総費用

- 事業建設費：建設費用を算出基準年次の価値で評価するために各年度ごとに割引率をかけ、合計したもの
 - 評価期間内に必要な維持管理費：整備延長に対する年間維持管理費用に割引率をかけ、供用後50年間で合計したもの。
 - 用地残存価値：検討期間後の残存価値を現在価値化したもの。
- 総費用 C = 5826百万円
 事業建設費 C = 5829百万円
 評価期間内に必要な維持管理費 C = 41百万円
 用地残存価値 C = 44百万円

1. 事業箇所位置図



2. 事業概要

詳細位置図

凡例

- 事業区間(本事業)
- 周辺の都市計画道路 (実線は供用済み ※暫定含む)
- 国道
- 主要地方道
- 一般県道

(一)下土狩徳倉沼津港線
狩野川第三架橋
事業区間 L=1.2km

事業目的

現在、清水町で狩野川を渡河できるのは徳倉橋、香貫大橋のみであり、交通集中による慢性的な渋滞が発生している。

狩野川第三架橋の整備により、周辺地域の慢性的な渋滞を緩和し、安全で円滑な交通を確保する。

事業内容

- 計画期間 : 令和3年度～令和19年度
- 施工延長 : 1,200m
うち橋梁工260m (2橋)
- 道路幅員 : 車道6.0m(全幅14.0m)
- 車線数 : 2車線
- 全体事業費 : 7,800百万円

1
2025/4/17 17時台

2
2025/4/18 7時台

14.0m

2.5m 1.5m 3.0m 3.0m 1.5m 2.5m

3. 事業の投資効果（費用便益比）

総費用(C)	58.26億円	(前回評価時) (47.71億円)
建設投資額	58.29億円	
維持管理費	0.41億円	
用地残存価値	0.44億円	
総便益(B)	59.61億円	(51.95億円)
走行時間短縮便益	48.83億円	
走行経費減少便益	8.20億円	
交通事故減少便益	2.58億円	
↓		
	今回評価(R7)	
費用便益比(B/C)	1.0 (1.02)	(1.1)
経済的内部収益率(EIRR)	4.1%	

$$\text{費用便益比} = \frac{\text{総便益}^{\ast}(\text{走行時間短縮便益} + \text{走行経費減少便益} + \text{交通事故減少便益})}{\text{総費用}^{\ast}(\text{建設投資額} + \text{維持管理費} - \text{用地残存価値})}$$

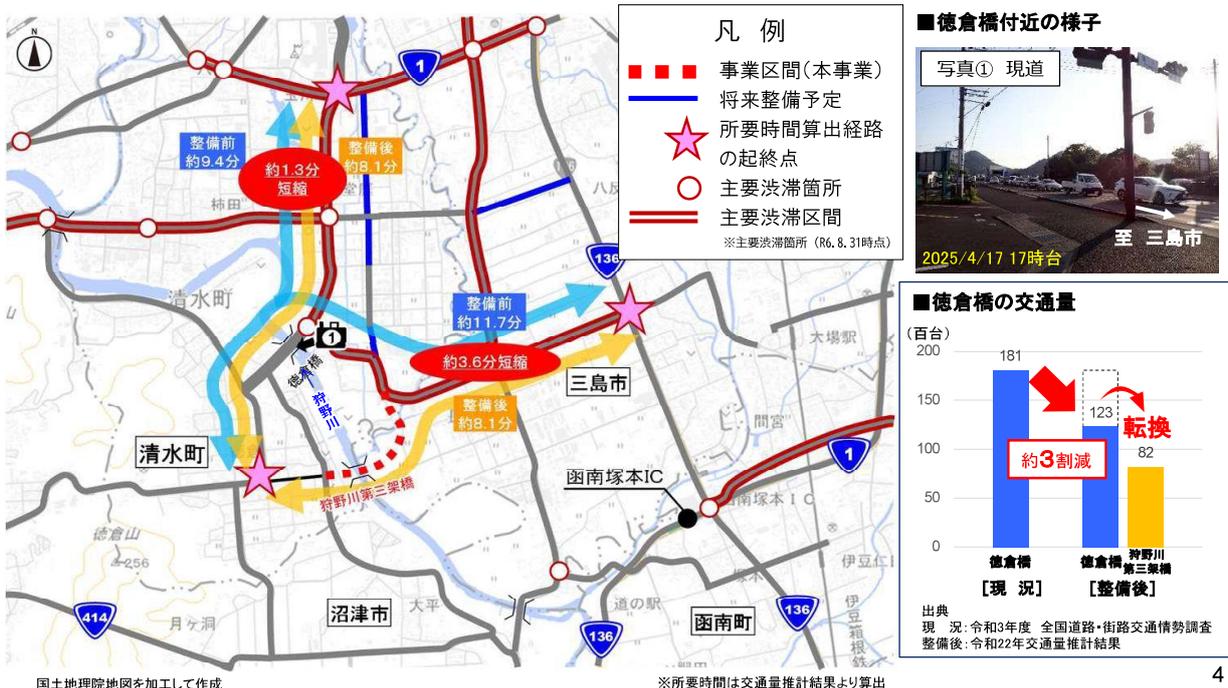
※社会的割引率(4%)を用いて現在価値に換算した総計

3

4. 事業の必要性（事業の効果）

① 円滑な交通の確保

・狩野川第三架橋の整備により、主要渋滞区間の交通分散が図られ、徳倉橋周辺の渋滞の緩和、所要時間の短縮が期待される。



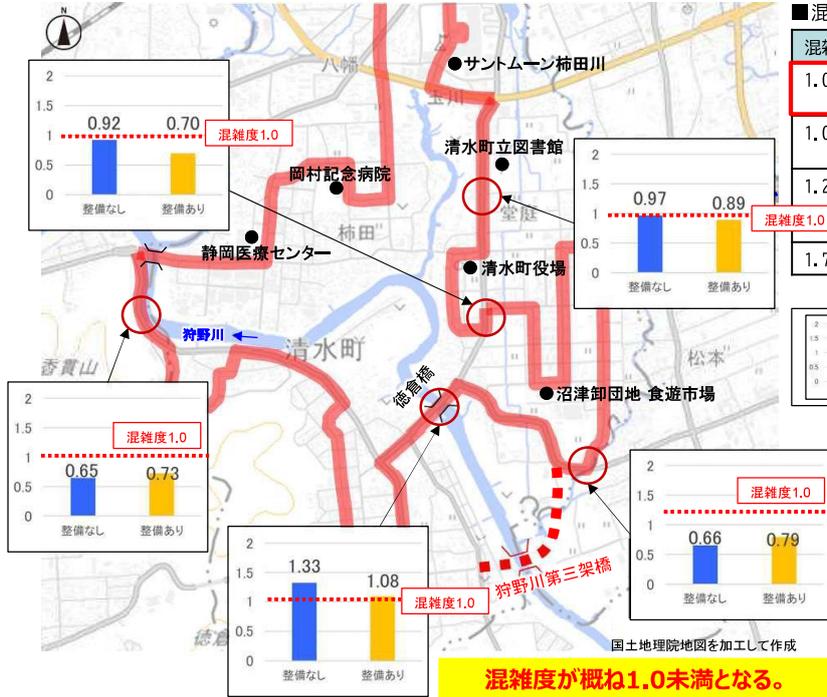
4

4. 事業の必要性 (事業の効果)

② 公共交通の利便性向上

・周辺地域の混雑が緩和されることにより、清水町を循環するバスの定時性の向上が期待される。

■清水町循環バス 経路図(赤線)



■混雑度の解釈 (要約)

混雑度	交通状況の推定
1.0未満	混雑することなく、円滑に走行可能な状態
1.0~1.25	ピーク時間は混雑する可能性がある状態
1.25~1.75	ピーク時間を中心として混雑する時間帯が加速的に増加する可能性の高い状態
1.75以上	慢性的な混雑状態

出典: 道路の交通容量 昭和59年9月 社団法人 日本道路協会



■清水町循環バス 事業者の声

徳倉橋が混雑することで、徳倉交差点まで影響があり、当社の徳倉交差点を通行する路線はほぼすべてで遅延が発生しています。特に朝は渋滞がひどいです。

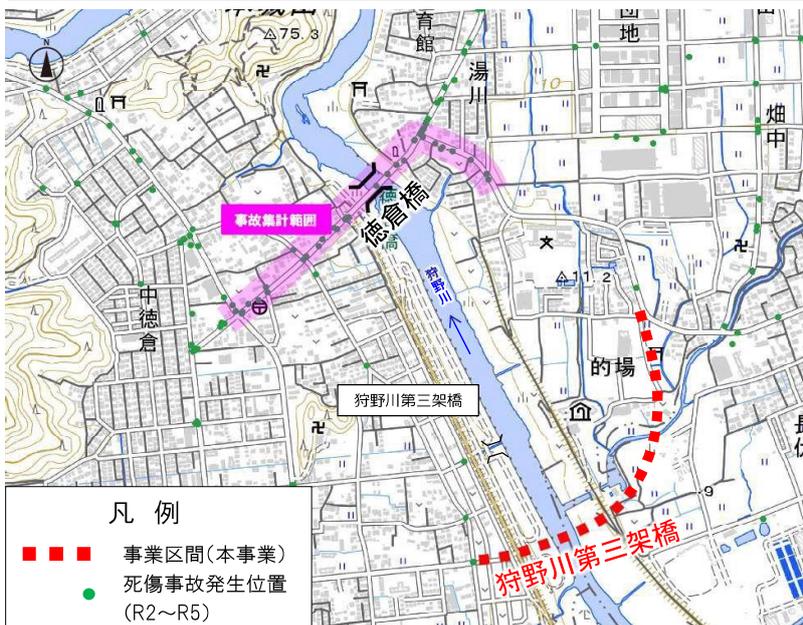


出典: 株式会社東海バス 沼津営業所 ヒアリング 5

4. 事業の必要性 (事業の効果)

③ 安全の確保(車両事故の抑制)

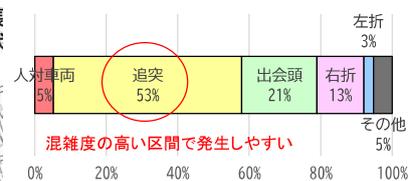
・狩野川第三架橋の整備により、徳倉橋周辺の混雑度が改善することで、追突事故の抑制が期待される。



■徳倉橋の混雑度



■徳倉橋付近の事故類型別事故発生状況

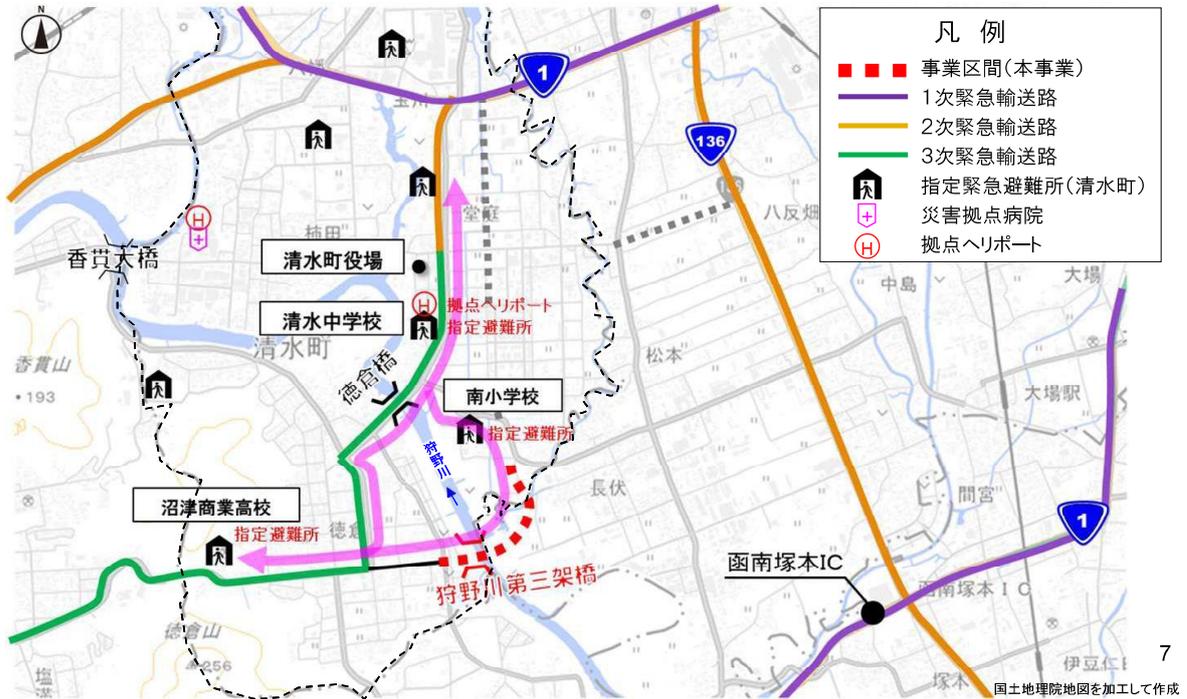


出典: (事故発生位置) 警察庁オープンデータ 国土地理院地図を加工して作成

4. 事業の必要性（事業の効果）

④ 災害時のリダンダンシーの確保

・狩野川第三架橋は、狩野川を渡河するネットワークを補完し、発災後の救援・復旧活動における輸送機能の確保が期待される。

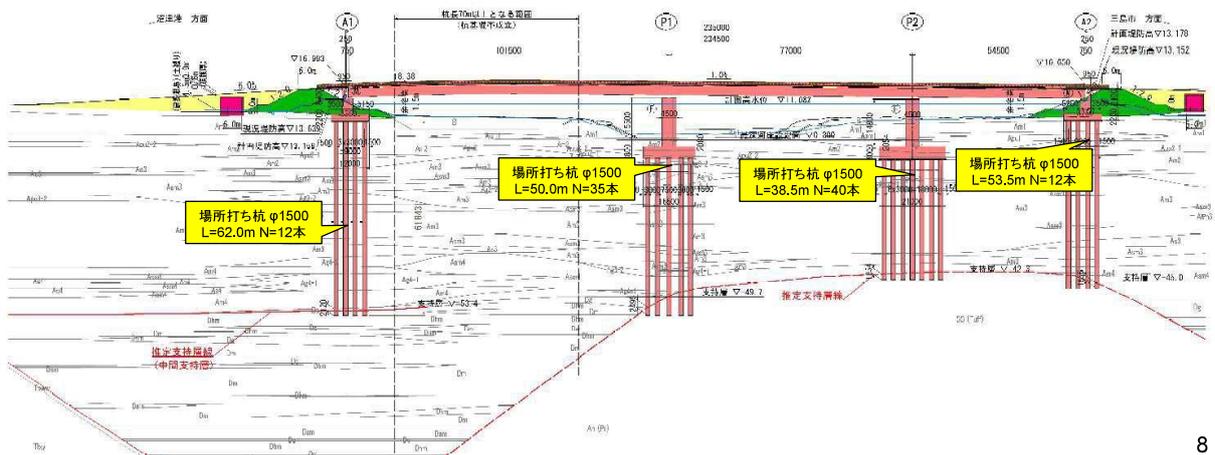


7

5. 前回からの変更点・理由

前回からの変更点・理由

区分	前回(R3) (事前評価)	今回(R7) (再評価)	主な変更理由
①全体事業費	7,000百万円	7,800百万円 (+800百万円)	・地質調査及び詳細設計の結果、橋梁下部工の基礎杭の本数が増加したため
②計画期間	R3~R15	R3~R19 (+4年)	・杭本数増加に伴い、施工計画を見直したため。



8

6 . 対応方針（案）

本事業は、

- 徳倉橋周辺の渋滞緩和により、地域内交通の円滑化、公共交通の利便性向上に寄与する。
- 緊急輸送路を補完し、防災機能の強化に寄与する。
- 新たな橋梁の整備に対する地元の期待も大きく、着実な整備が期待できる。

以上から、**事業効果が大きい**。



事業を**継続**し、早期完成を図る。